

喪中はがきに関する疑問？ Q & A

Q1) 喪中はがきはいつ頃までに先方にお出しすると良いのでしょうか…？

A) 年賀状投函の受付が12月15日から始まります。12月の初旬まで先方へ届くようにするのが良いでしょう。

しかし、先方の準備は早めの方もいらっしゃいますので、11月末日までに先方に届くように、やはり早めのご準備で余裕をもって出されることをオススメいたします。

11月末日までに投函！を念頭に、ご準備を早めに。

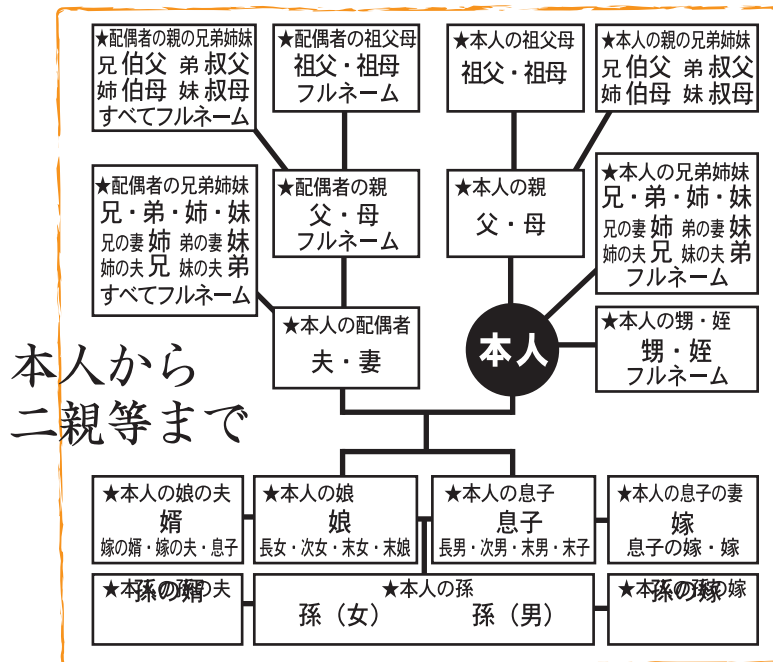
Q2) 喪中の挨拶状を出す範囲は…？

A) 一般的には、本人から二親等までの不幸とします。世帯を別にしていない場合は必要ないという風潮がありますが、ご本人との絆が深く、喪に服したい意向がある時は、

喪中の挨拶状を出しておられるようです。故人を偲び、喪に服したい！という意向表明のご挨拶状、年賀欠礼のお許しを請うためのご挨拶状が喪中はがきです。

本人（差出人）から見た 続柄 早見表

- 多く使用される呼称のみ掲載してあります
- 姓が異なる場合は基本的にフルネームで表記するのが一般的です
- 父方母方は原則として同じ扱いです



Q3) 亡くなった人の呼称は…？

A) とくに決まった言い回しはありません。両親の場合は「父」「母」が一般的であり、結婚されている方は差出人が夫婦連名であることが多く、どちらの父母が亡くなられた場合でも「父」「母」と記せば問題ありません。

結婚したことにより親が4人になったという考え方に基づいています。

Q4) 亡くなった人の年齢は…？

A) 一般的に満年齢ではなく「数え年」の年齢で表現します。

「数え年」とは、生まれた年も一歳として数える年齢です。